



2012 新春
vol. 14

平成24年 新年ご挨拶

年の始めに
理事長 大槻 秧司

p2

亀岡病院 新築移転にむけて

志定まれば、気さかなり

理事長補佐 副院長 大槻 克一

p4

スポットライト! vol.6 医局

医師より新年のご挨拶

p6

サークル紹介

バレーボール部

p7



表紙の絵は、亀岡市大井町並河 願成寺 住職 遠藤 秀峰様より提供して頂きました。

FREE ご自由にお持ち下さい

年の始めに

医療法人 亀岡病院

理事長
大槻 秧司



松の内も過ぎましたが、平成24年、医療法人亀岡病院は皆さんと共に新しい年を迎えました。昨年は東日本大震災はじめさまざまな不幸なことがありました。被災者の皆さんに心からお見舞いを申し上げお亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りすると共に、1日も早い復興を祈念申し上げます。本年が希望の持てる年になるように心から願っております。

亀岡病院のロビーの扁額「抜苦与楽」^{ばつくよらく}本年も変えないで掲げておくこととしました。これはテレビのプロデューサーをしていた友人が私に書いてくれたものです。昔なら腹が痛いと言えば、すぐ痛み止

めを打ってくれたが、この頃は診察、検査そして説明となかなか痛みを取ってくれない。「苦を抜き楽を与える」のが医者^{いしや}の務めではないかと僧籍をもつ彼は言いました。「応病与薬」(病にに応じて薬を与

う)と続き、薬師如来の本願だとのこと。症状が隠れて、そのため診断を誤ることがある、安易に痛み止めを使わないようにと学生時代から教えられている。しかし、痛み^{いたみ}に苦しむ側にもなってみると彼は言う。

私がこの地に帰って来た昭和39年頃、開業の大先輩から聞いた話。夜中に腹痛の患者に往診に行く、とにかく痛み止め(多くは麻薬)を打つ、そして帰ってくる。それでも治らなくてももう一度呼ばれたら手術等を要する「急性腹症」のことが多いから、慎重に対処し病院



ロビーの扁額「拔苦与楽」

の手配などをする。痛みをとってあげば大抵は1回の往診ですむ、翌日診療所に来るよう言っておくのだ。患者で出来ることは少ないし、そこで時間をとっていれば翌日の診療に支障をきたすしね。何しろ医師は1人だから」と聞かされた。夜中に往診に起こされることの多かつたもう半世紀前の話であります。

「拔苦与楽」とは、「仏・菩薩が衆生の苦しみを抜き取り安楽を与えること」とある。現代の医師とすれば、身体的精神的苦痛に対して、現在の医療で最良と考えられる治療を行う、自院より適切なところがあれば紹介するということになるのか。さらにWHO(世界保健機関)の健康

の定義に則れば、社会的にも健全になるよう支援しなければならぬことになる。病院のロビー。医の原点としての「拔苦与楽」を現代に生かす

にはどうあるべきか。通る度、思いをいたしておきます。

私達の医療法人亀岡病院は、古世町3丁目クニッテル通り沿いに108床の新病院を計画し、来年5月には完成予定です。現在の病院は老健施設と致します。

諸情勢の厳しい中ですが、職員一同の賛同を得て敢えて新病院建設に挑戦致しました。

地主様をはじめ地元の皆さんには、御無理なお願ひ致しましたのにお認めいただきました。京都府・亀岡市行政御当局には、懇切な御指導をいただきました。その他多くの関係の皆さんにもお世話になっております。心から御礼申し上げます、皆さんの御厚意に酬いるためにも、市民の皆さんに愛され、お役に立つ病院にしなくてはならないと職員一同心に期しております。

なお未だこの病院建設計画、緒に付いたばかりでございます。当院には幸い新病院に意欲を燃やす多くのスタッフがおります。何卒今後も宜しく御指導下さいますようお願い申し上げます。

病院職員の皆さん、新病院に移るためには多くの課題があります。本年はこれを着実に克服していかなければなりません。一致協力してことに当たって下さい。

これから苦難も続くかも知れませんが、しかし努力すれば「拔苦与楽」きっと苦を抜き楽が与えられるでしょう。

新病院建設、老健施設発足の大きな夢と希望のある年であります。一層の御盡力をお願い致します。

マッカーサー元帥は1951年離日して軍籍を離れる時言いました。古い軍歌のリフレインを引用して「老兵は死なず、ただ消えゆくのみ」、そして彼は「神の与え賜うた自己の義務を自覚しそれを果たそうと努めてきたひとりの老兵として」と続けました。

私も本年80才を迎えます。間もなく消える老兵ですが、もう少しの間、義務を果たすべく努力を致す所存でありますので、御指導御協力をお願い致します。

本年がすべての皆さんにとりまして良い年となりますよう祈念致します。年頭の言葉と致します。

亀岡病院 **新築移転** にむけて

志定まれば、気さかんなり

医療法人 亀岡病院 理事長補佐・副院長 **大槻 克一**

亀岡市古世町の新病院建築予定地で敷地の造成工事がほぼ終了しました。今後は、平成25年2月下旬の完成を目指して建築工事が進んでいく予定です。今年の年末には、新病院の完成に近い姿が見られることでしょう。平成24年が医療法人亀岡病院と利用者の皆さんにとって希望にあふれた年になりますよう心から願っております。



新病院建築予定地にて撮影

はじめに

「病院を新築するなら必死になって働かなければなりません。その覚悟があるならやられたらいいと思います。」もう2年ほど前でしょうか。京都市内へ向かう車の中で理事長先生が言われました。一呼吸おいて「病院を新築しましょう。」と返事をさせていただきました。

私たち職員が働きやすいように病院の機能を充実させ、ひいては患者さんやご家族に快適にお過ごしいただける病院にするためには、すでに手直して対応できる範囲を超えていると考えていたので判断に迷いはありませんでした。もちろん、いちばん楽なのは、現在の病院を最低限の手直しをしながら使い続けることでした。しかし、「地域に信頼され、必要とされる病院であり続ける」ためには、職員の技術・知識・意識とともに病院設備もよくしていかななくてはなりません。

『人生とは自転車のようなものだ。倒れないようにするには走らなければならない。』（アルベルト・アインシュタイン）病院も同じです。「亀岡病院であり続ける」ためには、常に社会情勢や時代のニーズにあわせて変化することが大切です。

新病院の建物について

「機能性と潤いを兼ね備えた病院」私が頭の中で描いた新病院のコンセプトです。病院ですから快適に仕事ができるように、また、患者さんにご不便をかけないように「機能性」を追求することは当然です。「潤い」をあえて加えたのは、職員が心にゆとりをもち、患者さんやご家族にも和める空間を提供できたらと考えたからです。職員の心のゆとりは患者さんへのよ

り丁寧な対応につながります。

新病院は、5階建てで、1階に外来診療部門、検査部門（血液・尿検査、生理検査）、放射線診断部門、内視鏡診断部門、医事課を配置します。患者さんやご家族が息ついていただけるように、外来待合スペース以外にカフェテリアを設けました。ミニギャラリーの設置も考えています。2階には、透析センター、リハビリテーションセンター、手術室、薬剤部、厨房を配置します。新設する透析センターとより高い基準をクリアする100平方メートル以上のリハビリ室は、それぞれへのスタッフの充実を含めて、新病院開設にあたり最も力を入れている領域です。3階は一般病棟（ICU 8床を含む58床）、4階は医療療養病棟（50床）です。5階は、医局、事務部門、会議室、職員食堂などを配置します。会議や自己研鑽のための研修にフルに活用していただきたいとの思いで、取上げて採光のよい会議室を2室設けました。職員全員が利用するに十分な広さで眺めもよい食堂とそれに続く屋上テラスは、リフレッシュして午後の仕事に向かえるよう考えて設けました。その元気を患者さんに還元してあげてもらいたいとの願いを込めています。

新病院での医療コンセプト

その時代の社会情勢によって医療に対するニーズは変化していきます。医療政策もめまぐるしく変わるため、その変化をできれば予測し、遅れをとらないように柔軟かつ迅速に対応していかなければなりません。地域医療において亀岡病院が果たす役割も少しずつ変化していくでしょう。それに応じて、私たち職員ひとりひとりの意識も変えていかなければなりません。病院の顔とも言える外来部門と中心的存在である病棟、新たに取り組む透析部門と強化充

実させるリハビリテーション部門について、現時点での構想を述べたいと思います。

① 外来部門・病棟

亀岡病院は、通院治療中の患者さんの病状悪化時には優先的にベッドを確保して入院治療するよう努めます。そのために空ベッドを常に確保して、長期間通院していただきながら、いざというときに他の病院に行っていたかなければならないようなことが起こらないように最大限努力します。

病院の機能分化、地域医療の役割分担化の下で、当院は主に慢性期医療を担ってきました。しかし、高齢者人口の急激な増加とともに在宅療養をされる高齢者、施設入所をされる高齢者が増え、これらの方々の病状が悪化した際の受け入れをこれまでの慢性期病院（医療療養病床を含む）が担うよう求められてきています。重症で早急に手術などが必要となる可能性が高い患者さんは、診療情報を添えて遅滞なく高度機能病院へ搬送することは当然ですが、当院で対応可能な軽症から中等症の患者さんは、できるだけ早期に入院治療を開始し、早期退院と在宅または施設での療養継続をめざします。当院は、今後も慢性期医療、高齢者医療を担当するということは変わりませんが、「在宅療養を支援する病院」としてさらに積極的な取り組みが必要になります。1階の救急処置室は、このニーズに応えるよう本格的な設備を備えます。

② 透析センター

一般に、慢性腎不全のために透析医療を必要とする患者数は、人口の440人に1人程度といわれています。亀岡市の人口が93,335人（2011年10月1日現在）であることから透析を要する患者数は210人余りと想定されます。亀岡市で透析ベッドを持つ2医療施設（合計30ベッド）が月水金2ク

ル、火木土1クールで稼働しても透析可能な患者数は90人までであり、半数以上の透析患者さんは週3回の人工透析を受けるため、毎回、遠方の透析施設まで通院しなくてはなりません。亀岡市内の医療機関にさらなる透析ベッドの確保が必要と考えられます。

透析導入原因疾患の第1位（43・2%）である糖尿病が強く疑われる人や可能性を否定できない「予備軍」は、全国で合わせて2210万人にのぼり、さらに増加の一途を辿っています（2008年までのデータ）。このことから今後、新規透析導入患者数は増加すると考えられます。

そこで、亀岡病院では、病院の新築移転に伴い、透析センター（20ベッド）を設け、亀岡市および近隣の通院患者さんの維持透析を行っていきます。また、自身の病状または家庭の事情で通院が困難になった透析患者さんの入院による透析継続にも取り組んでまいります。

③ リハビリテーションセンター

骨折、脳卒中後に寝たきりになられる高齢者の方が、全国で毎年数百万人新たに増えているといわれています。寝たきりになられると、肺炎、尿路感染症、褥瘡などを併発して全身状態まで悪化するということとがしばしば起こります。寝たきりになることを避け、高齢者の方が健康に過ごせる時間をできるだけ長くするためには、可能

亀岡病院新病院



平成25年2月下旬完成予定



な限り早期から適切なリハビリテーションを行うことが重要です。新病院では、脳神経リハビリ、回復期リハビリ病棟基準をクリアする広さを確保し、入院リハビリテーションを積極的に実施していきます。

おわりに

『志定まらざれば、機定まらず。志定まれば、気さかんなり。』 論語のことばです。人は目標が決まれば、意気が高まり、その実現に向けて全力を尽くすことができるという意味だそう。建物も医療の内容も素晴らしい新病院ができるように亀岡病院職員一同力を尽くしてまいります。利用者の方皆さんには、新病院開院に向けて順次お知らせをさせていただきますが、よりよい病院にするためにご意見ご要望をいただければ幸いです。

スポットライト! vol.6

当院にある様々な職種を部署ごとにスポットを当ててご紹介します。

「医局」

理事長補佐 副院長
内科・循環器内科

大槻 克一



京都府立医科大学を卒業後、心臓血管系の疾患とその危険因子である高血圧、糖尿病、脂質異常症を中心に診療と大学での講義・研究を行ってきました。亀岡病院に赴任して、もう4年になりますが、今後も患者さんの立場に立ったより良い医療が提供できるよう日々努力してまいります。

院長 内科

山崎 英彰



病院での医療活動はチーム医療が基本であることは間違いなくと思います。チームであることの条件は、情報の共有とメンバーが一定水準の能力を持っていることだと思います。院内研修で知識を増やし、どのような情報伝達が有効なのかを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

診療部長 内科

大川 克則



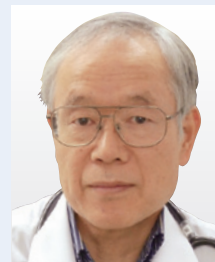
皆さん、あけましておめでとうございます。早いもので、亀岡病院にお世話になって5年の歳月が過ぎました。

昨年、我が国に未曾有の大災害が有り、本年は欧米に大人災が襲いかかることでしょう。しかし、私自身は楽観的に生きていきたいと考えています。

万葉時代の歌人が初春に「いやや重け佳事」と願ったように、皆さんにも佳き事が、たくさん重なる様、心よりお祈り致します。

副院長 内科

牧 和夫



新年明けましておめでとうございます。昨年は日本にとって大変な年でした。

皆さんにとってはいかがでしたでしょうか。今年も一年間、健康で過ごされることを祈念いたします。

健康の秘訣：歩くこと、ウォーキング
今年も、よろしくお願ひいたします。

顧問 整形外科

片岡 善夫



昨年は、東日本大震災があり、その後も、いわゆる想定外の事象が次々に起り、世間が何か不安な気分になったように感じました。大自然の脅威、底知れぬ力に驚き、人間の非力さを論らされました。新年に当たり、曲がりなりにも、健康に過ごせていることに感謝し、職務である診療に、謙虚に、坦々と、無理せず、取り組んでいきたいと思っております。何卒宜しくお願ひいたします。

院長補佐 内科

福島 達夫



皆さん、あけましておめでとうございます。2012年は新たな領域にむけての

チャレンジの年になります。新病院での透析施設開設に先立ち、当院でも血液透析を開始することになりました。腎臓病領域でも、微力を尽くすことができれば幸いです。

サークル紹介

バレーボール部

亀岡病院バレーボール部 監督 北崎 康宏

亀岡病院バレーボール部は現在部員8名、監督・コーチ2名を中心として活動を行っています。今回監督をさせていただいている私が、代表して亀岡病院バレーボール部の紹介をさせていただきます。



進めませんでした。チームは毎年強くなっているのに周りのレベルも上がり、なかなか目標としていたベスト8には手が届きませんでした。それどころか実力のあるメンバーが揃ってきて、勝てる“と感じていた平成21年、22年の大会ではベスト16にも入れませんでした。”もっと強くなり

私は亀岡病院に勤めるようになって11年以上たちますが、バレー経験者ということですのですぐに部のほうに呼ばれ、参加させていただきました。毎年参加している京都私立病院協会病院対抗女子バレーボール大会ではベスト16までは進めていきましたが、

その先にはなかなか進めませんでした。チームは毎年強くなっているのに周りのレベルも上がり、なかなか目標としていたベスト8には手が届きませんでした。それどころか実力のあるメンバーが揃ってきて、勝てる“と感じていた平成21年、22年の大会ではベスト16にも入れませんでした。”もっと強くなり

たい“。亀岡病院の名を少しでも高いところに掲げたい”と月1回だった練習を2回に増やし、試合慣れするため今年6月には地域のつつじ杯バレーボール大会にも参加。いろいろな努力を皆が重ね、つつじ杯では準優勝。私立病院協会病院対抗女子バレーボール大会では念願のベスト8を勝ち取ることが出来ました。病院の掲示板には快挙の文字が書かれていましたが、監督としてベスト8は実現すると信じておりました。しかしながら、月2回の練習を快く承諾していただいた亀岡病院と心のこもった差し入れをして下さった方々、また励ました声援を送って下さった皆さんのおかげ

で選手たちが実力を十分に発揮することが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。大変ありがとうございました。亀岡病院バレーボール部はこれからもみんなで同じ目標に向かい大好きなバレーボールを続けていきます。一緒にバレーボールをしていける仲間も募集していますので興味のある方は練習に一度参加してみてください。



理 念

私たちは、高い医療技術と温かい心を持って、
医療・介護を提供し、地域社会の発展に貢献します

基本方針

1. 患者様中心の良質な医療と介護を提供します
(良質な医療と介護)
1. 医療安全に最大の注意を払います
(医療安全)
1. 地域の医療機関や介護サービス機関と連携し、
地域医療・介護の充実に貢献します
(地域連携)
1. 全職員は常に最新の医療・介護の研鑽に努めます
(研鑽)

患者さんの権利

1. 一人の人間として尊重される権利
1. 年齢・性別・宗教を問わず、平等に必要な医療を受けことが出来る権利
1. 病気・治療について十分な説明を受ける権利
1. 治療方針につき同意・拒否ができる権利
1. 個人情報を守られる権利
1. セカンド・オピニオン (他の医療機関での説明) を受ける権利

患者さんへのお願い

1. ご自身の病状について可能な限り詳しくお話し下さい
1. ご自身の治療に関する希望、あるいは希望しないことがあればお申し出下さい
1. ご自身の病気・治療で分らないことがあれば、十分な説明を求めて下さい
1. 治療などで不安や異常を感じたらお知らせ下さい
1. 患者さんとご家族は、治療チームの一員として、治療に参加・協力して下さい
1. 他の患者さんの迷惑にならないようご配慮下さい

併設施設

亀岡市地域包括支援センター

TEL (0771) 291-5155
FAX (0771) 291-3220

居宅介護総合支援センター

TEL (0771) 221-9210
FAX (0771) 291-3220

訪問看護ステーション

TEL (0771) 251-8700
FAX (0771) 251-8100

訪問介護ステーション

TEL (0771) 251-0050
FAX (0771) 251-6260

デイサービスセンター

TEL (0771) 231-6600
FAX (0771) 231-6600

第2デイサービスセンター

TEL (0771) 211-0210
FAX (0771) 211-0210

介護複合施設 けやき

デイサービスセンター

TEL (0771) 221-9205
FAX (0771) 221-9202

別院診療所

TEL (0771) 271-8550
FAX (0771) 271-8555

デイケアセンター

TEL (0771) 271-8550
FAX (0771) 271-8555

訪問サービス

- 訪問診療
- 訪問薬剤
- 訪問リハビリテーション
- 訪問看護
- 訪問栄養指導



診療科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、
腎臓内科、リウマチ科、整形外科、リハビリテーション科、
皮膚科、泌尿器科、眼科、放射線科

● 許可病床数 140床 (3病棟)

● スタッフ数 298名 (全職員数)



- JR 亀岡駅下車、
亀岡駅から南へ
徒歩約15分
- 京阪京都交通バス
グランド前下車
- コミュニティバス
亀岡病院前下車
- タクシー
(駅前にタクシー
乗り場あり)

医療法人 亀岡病院

〒621-0866 京都府亀岡市旅籠町29

TEL (0771) 22-0341 (代)
FAX (0771) 22-4305

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~kamebyou/>
E-mail kamekame@oak.ocn.ne.jp

亀岡病院

検索

編集後記

新年あけましておめでとう
ございます。皆さんは、
お正月はどちらで過ごされ
たでしょうか？今年度は、
亀岡病院創立55周年とし
て、記念行事で職員研修旅
行を計画しています。次号
より、旅行先で体験したこ
と・感じたこと等、旅行記
を掲載しますので楽しみに
してして下さい。

(広報委員会 齊藤博之)

次号予告

次回の「かめ病通信こだま」
第15号は5月発行予定です